



Ⅰ学期の教育の取り組みや子どもたちの成長は、前月号で伝えさせていただきました。保護者の皆様におかれましては、Ⅰ学期の保育参観・学級懇談会にご参加いただき、誠にありがとうございました。

各学年・クラスで絵本（『ことばとふたり』『ことばいいかええほん』『みえるとかみえないとか』『みっちときりー』『いいな「じぶん」!』『ふわふわとちくちく』など）を活用し、「言葉選び（ふわふわ言葉・ちくちく言葉）」や「違いを認め合う心・多様性（アンコンシャス・バイアス）」という人権の重要テーマに、園とご家庭が一体となって深く向き合われた素晴らしい取り組みだと感じました。

新しい環境でスタートしたⅠ学期、お子様一人ひとりが自分の「やりたい」を見つけ、友だちや先生とかかわりながら、安心して園生活を送れるようになってきたことを大変うれしく思っております。

Ⅰ学期のまとめと振り返り

～園と家庭が一体となって、子どもの人権を大切にするために～

Ⅰ. 「人権」をテーマにした語り合いを振り返って

今回の懇談会では、全クラスで絵本などを通して「言葉選び」や「違いを認め合うこと（多様性）」といった「人権」に関するテーマで語り合っていました。

グループワークでは、

- ・「つい忙しくて『早くして』とちくちく言葉を使ってしまう」
- ・「男の子らしさ・女の子らしさといった固定概念や周りの目を、大人自身が気にしてしまうことがある」
- ・「子どもの『好き』や『伝えたい気持ち』をまずは丸ごと受け止めてあげたい」

といった、日頃の悩みや温かい想いがたくさん共有されました。「うちも同じです」と頷き合い、共に悩みながら解決の糸口を探る保護者の皆様の姿に、私たち教職員も大変胸が熱くなりました。

「参観の様子」



「学級懇談会」



2. 私からお伝えしたい3つのメッセージ



①「振り返ること」そのものが、すでに温かい人権尊重の第一歩です

懇談会の中で「自分もつい感情的な言葉を使ってしまっている」と振り返られた方もいらっしゃいました。しかし、完璧な親である必要はありません。「自分のかかわり方はどうだったかな」と立ち止まり、我が子の心に寄り添おうと悩み、考え続けることこそが、お子様への最大の愛情であり、人権を大切にする姿勢そのものです。



② 大人の姿が、子どもの「心の鏡」になります

子どもたちは、大人の使う言葉や表情、接し方を本当によく見て吸収しています。家庭や園で、大人が相手を思いやる「ふわふわ言葉」を使ったり、一人ひとりの個性や「好き」という気持ちを否定せずに認め合ったりする姿を見せていくことが、子どもたちの「相手を大切にする心」を育てていきます。

③ 正解はひとつではありません。「園と家庭」で共に歩みましょう

子どもの成長段階や場面によって、かかわり方に「たったひとつの正解」はありません。失敗したり、人権を傷つける言葉を使ってしまったときこそ、「なぜいけないのか」「どう伝えたら心地よいか」を一緒に考えていく大切な学びのチャンスです。

3. 2学期に向けて

幼稚園は、多様な子どもたちが集まり、お互いの「違い」に出会い、「一緒に楽しい」「違ってても素敵」を体験する大切な社会の場です。

今回の懇談会は一回きりのイベントではなく、人権について皆さまと一緒に考え続ける「スタート」だと考えております。これからも園だよりや日々の送迎時の会話などを通してご家庭と深くつながりながら、子どもたち一人ひとりの笑顔と個性を輝かせていきたいと思っております。2学期も「ももっこファミリー」で心をひとつにして進んでいきましょう。

~8月あさがおイラスト~
いつも好奇心旺盛、生き物博士
ひろさん



元気！

考える！



遊ぶ！

ももっこキャッチフレーズで
2学期もファイト♡

文責 まつなが あい

